

河内稲づくり情報 ～雑草イネ対策～

2020年8月河内農業振興事務所

河内管内で「雑草イネ」の発生事例が増加しています。雑草イネは放置すると収穫物に赤米が混入する異品種混入、蔓延すると収量低下等につながります。また、トラクター等の機械に付着した泥とともに他のほ場へ侵入し、発生が拡大します。発見したら速やかに抜き取り、株を処分しましょう。

1 雑草イネとは

- ・脱粒性が極めて強く、栽培品種と比較して出穂期や草丈が異なる(栽培種よりやや早い)
- ・ふ先に色がついていて、芒が長い(主に芒が赤いものが多い)
- ・粳もしくは玄米が着色している(褐色～黒色)



2 防除対策

写真 雑草イネの特徴

【収穫後・作付前】

① 不耕起(コスト：小、効果：中)

冬期の低温で地表面のこぼれ種死滅させる。また、鳥類による摂食も期待出来る。

② 非選択性除草剤(コスト：中、効果：中)

収穫後のひこばえや、作付前の発生を除草剤で枯死させる。(グリホサート液剤など)

③ 石灰窒素(コスト：中、効果：中)

収穫後に石灰窒素を 50kg/10a 散布することで、地表面の雑草種子に作用し発生量を減らす。

④ 田畑輪換(コスト：一、効果：大)

麦類、大豆等に転換することで、作付前後の耕起作業やイネ科に有効な除草剤で防除する。

【本田期間】

① 有効除草剤(コスト：中、効果：大)

雑草イネに効果のある除草剤を7～10日間隔を目安に合計2～3回散布する。

② 手取り除草(コスト：大、効果：大)

定期的に手取り除草する。出穂後2週間すると粳がこぼれるため、早期に抜き取る。

③ 遅植え・遅播き(コスト：中、効果：大)

作付時期を遅らせ、除草剤で防除してから移植、播種をする。